

令和 8 年 1 月吉日

報道機関 各位

国立大学法人北海道国立大学機構北見工業大学
オホーツク農林水産工学連携研究推進センター
センター長 新井 博文

「第 8 回日本オープンイノベーション大賞(主催:内閣府)」にノミネートされました。

この度、内閣府主催の「第8回日本オープンイノベーション大賞」に、津別町農業協同組合(北海道網走郡津別町、代表理事組合長 佐野 成昭、以下「JA つべつ」)の取組・プロジェクト「北の大地を拓く！JA つべつ×北見工業大学 オホーツク地域を潤すスマート農業イノベーション」がノミネートされました。

この取組・プロジェクトには、国立大学法人北海道国立大学機構北見工業大学オホーツク農林水産工学連携研究推進センター(北海道北見市、センター長・教授 新井 博文)、(株)キュウホー(北海道足寄郡足寄町、代表取締役社長 永井 博道)、NTT ドコモビジネス(株)(旧NTT コミュニケーションズ株式会社、代表取締役社長 小島 克重)、が参画し、厳寒・積雪・電波不感といった環境条件の下「寒冷地・中山間地スマート農業モデル」を目指し地域一体で取り組むものです。

令和 8 年 2 月 9 日(月)の表彰セレモニーにて、各ノミネータによる取組概要のショートピッチ、及び各賞の表彰式が行われます。なお、13 の賞に 15 の取組・プロジェクトがノミネートされました。全ての取組が、内閣総理大臣賞をはじめ各賞の受賞対象になっており表彰をもって公表されます。

■取組・プロジェクト名称

「北の大地を拓く！JA つべつ×北見工業大学 オホーツク地域を潤すスマート農業イノベーション」

■取組・プロジェクト概要

三重苦を抱える「寒冷地・中山間地スマート農業モデル」を地域一体で推進

【目的】 北海道道東地区の中山間地域において課題となっている厳寒・積雪・電波不感といった環境条件の下、農作物の担い手不足等を解決するためのスマート農業の導入。

【内容】 北見工業大学の「発芽制御」・「AI による作物認識」・「農作業支援ロボット」という地元大学発イノベーションの社会実装に向け、JA つべつ、NTT ドコモビジネスと地域農機具メーカーのキュウホーが「四位一体」となって津別町発の寒冷地・中山間地スマート農業モデルを推進。

【効果】 除草作業の負担を軽減する、作物列認識と自動走行制御を備えた「AI カルチロボ」や、寒冷地でも安定出荷が可能になる「温度応答型玉ねぎコーティング種子」といった学術成果を農業現場主導で実装に繋げる新たな農・産・学連携モデルの確立を目指す。

■日本オープンイノベーション大賞の概要について(内閣府 HP より)

イノベーションの創出を巡る国際的な競争が激化する中で、研究開発等の成果を迅速に社会実装し、社会的ニーズの解決や新たな価値の創造につなげることが大きな課題となっています。そのための方法として、組織の壁を越えて知識や技術、経営資源を組み合わせ新しい取組を推進するオープンイノベーションが注目されています。

こうした状況を踏まえ、我が国のオープンイノベーションをさらに推進するために、今後のロールモデルとして期待される先導性や独創性の高い取組を「日本オープンイノベーション大賞」として称えることとしました。

本表彰では、オープンイノベーションの取組で、模範となるようなもの、社会インパクトの大きいもの、持続可能性のあるものについて、担当分野ごと的大臣賞、長官賞、経済団体、学術団体の会長賞等の表彰をするとともに、各賞の中で最も優れたものを内閣総理大臣賞として表彰します。

■表彰式について(内閣府 HP より)

日時:2026 年2月9日(月)16:00~20:30

※受賞者発表は 17:30~(予定)

会場:虎ノ門ヒルズフォーラム ホール B

(東京都港区虎ノ門 1-23-3 虎ノ門ヒルズ森タワー 4F)

内容:ノミネート者によるピッチ、各賞受賞者発表、各賞授与、受賞者スピーチ 他

表彰式の参加・Web 配信について ※一般向け

表彰式は現地での参加が可能です。また、表彰式は Web 配信を予定しております。以下参加申し込みフォームより事前登録ください。Web 配信の視聴リンクは当日正午目途に通知します。

(参加申し込みフォーム)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/idou/2026/20260116oi1.html>

(1月30日(金)23時59分登録締切り。)

表彰式の取材について ※報道関係者向け

表彰式の現地取材を希望される方は、以下取材登録フォームの「取材等について」を御確認の上、同フォームよりお申し込みください。

(取材登録フォーム)

<https://www8.cao.go.jp/cstp/idou/2026/20260116oi2.html>

(2月5日(木)23時59分登録締切り。)

※詳細については内閣府のホームページをご参照ください。

内閣府ホームページ 第8回日本オープンイノベーション大賞について

<https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/prize/2025.html>

〈お問い合わせ先〉

北見工業大学 オホーツク農林水産工学連携研究推進センター

浪越 毅(なみこし たけし)

TEL:0157-26-9433、E-mail: takenami@mail.kitami-it.ac.jp

第8回 日本オープンイノベーション大賞のノミネート取組・プロジェクト一覧

※番号は応募時系列並び。賞の種類は次のとおり。

内閣総理大臣賞(最優秀賞)、科学技術政策担当大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、スポーツ庁長官賞、日本経済団体連合会会長賞、日本学術会議会長賞、選考委員会特別賞

番号	取組・プロジェクト名称	ノミネート者 一覧 (個人名記載なしは団体応募)
1	ロボット手術で血管テーピングを安全・円滑に行う革新的デバイス「ヴァスガイド」の開発とその臨床応用	① 徳島大学病院 泌尿器科 助教 佐々木 雄太郎
2	スカプター: AI・AR 技術による非接触型体重推定デバイスの社会実装	① 国立大学法人宮崎大学 工学部 教授 川末 紀功仁 ② 国立大学法人宮崎大学 工学部 特別助教 Khin Dagon Win ③ 国立大学法人宮崎大学 農学部 准教授 徳永 忠明 ④ 国立大学法人宮崎大学 医学部 教授 金子 政時 ⑤ 日本ハム株式会社 中央研究所 リーダー 助川 慎
3	分野も組織も世代も越える研究ポスター発表形式(通称:100 人論文)による本質対話とマッチング創出	① 国立大学法人京都大学 学際融合教育研究推進センター
4	地方創生を加速する双方向循環型産学共創モデル-技術知と人材の好循環を生み出す地域共創の新機軸-	① 国立大学法人広島大学 副理事(産学連携担当)/大学院先進理工系科学研究科 教授/デジタルものづくり教育研究センター 部門長 山本 透 ② 国立大学法人広島大学 大学院先進理工系科学研究科 准教授/一般社団法人デジケーション 代表理事 脇谷 伸 ③ 国立大学法人広島大学 大学院先進理工系科学研究科 准教授 木下 拓矢 ④ 国立大学法人広島大学 デジタルものづくり教育研究センター 副センター長(特任教授) 坂元 康泰
5	産学官連携による防災研究「ウォーターチェンジャー®」の社会実装プロセス～能登半島地震被災地で活躍した新潟県企業から生まれたトイレカー「リバイオ」の誕生～	① 国立大学法人長岡技術科学大学 環境社会基礎工学分野 准教授 渡利 高大 ② ユニトライク株式会社 代表取締役 監物 秀樹 ③ 東京電力ホールディングス株式会社 フェロー 吉澤 厚文 ④ AQVANA 株式会社 CEO Nur Adlin Binti Abu Bakar ⑤ 株式会社ニットク 取締役 荒井 和孝
6	アカデミアと企業の連携による抗 COVID-19 薬の開発研究と社会実装	① 国立大学法人北海道大学 ワクチン研究開発拠点 卓越教授/拠点長 澤 洋文 ② 国立大学法人北海道大学 人獣共通感染症国際共同研究所 教授 大場 靖子 ③ 国立大学法人北海道大学 人獣共通感染症国際共同研究所 准教授 佐々木 道仁 ④ 塩野義製薬株式会社 主席研究員/国立大学法人北海道大学 客員教授 佐藤 彰彦 ⑤ 塩野義製薬株式会社 主任研究員/国立大学法人北海道大学 客員研究員 佐名木 孝央
7	ビジョン共有で社会課題を解決する新たな産学協創モデル「日立東大ラボ」	① 株式会社日立製作所 研究開発グループ ② 国立大学法人東京大学
8	民間から実務家教員を登用する新しい産学連携人材育成モデル 最先端の知見を伝え、デジタル人材不足の解消へ	① 株式会社ビズリーチ みらい投資プロジェクト ② 独立行政法人国立高等専門学校機構 本部事務局学務課

番号	取組・プロジェクト名称	ノミネート者 一覧 (個人名記載なしは団体応募)
9	産学官連携によるフードロス削減と食品端材の再価値化による持続可能な共創モデルの構築	① 株式会社吉野家ホールディングス グループ商品本部 素材開発部 主席研究員 黒川 眞行 ② ASTRA FOOD PLAN 株式会社 代表取締役 加納 千裕 ③ 学校法人香川栄養学園 女子栄養大学 栄養学部 実践栄養学科/食文化栄養学科 准教授 宮澤 紀子 ④ 埼玉県 資源循環推進課 サーキュラーエコノミー担当 主査 福島 宏幸
10	ミノムシ由来強靱繊維を活用したスポーツ構造材の開発	① 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門 新素材開発グループ グループ長 亀田 恒徳 ② 興和株式会社 未来事業企画室 室長 浅沼 章宗 ③ 興和株式会社 未来事業企画室 課長 中津 知良 ④ ヨネックス株式会社 生産・技術本部環境対策推進室 室長 千葉 慎一郎 ⑤ ヨネックス株式会社 生産・技術本部環境対策推進室 課長 中西 悠子
11	共同輸送データベースの普及による持続可能な物流～フィジカルインターネットの実現	① 一般社団法人運輸デジタルビジネス協議会 事務局 ② 株式会社 traevo
12	「もう一度、話す喜びを！」ニッチだがアンメットニーズに対峙した臨床家のオープンイノベーションの挑戦	① 株式会社東京医歯学総合研究所 代表取締役 山田 大志 ② 国立大学法人東京科学大学 摂食嚥下リハビリテーション学分野 教授 戸原 玄 ③ 三洲電線株式会社 医療機器開発プロジェクト ④ 富士システムズ株式会社 営業第二部 一課
13	北の大地を拓く！JA つべつ×北見工業大学 オホーツク地域を潤すスマート農業イノベーション	① 津別町農業協同組合 ② 国立大学法人北海道国立大学機構 北見工業大学 オホーツク農林水産工学連携研究推進センター ③ NTTドコモビジネス株式会社 ④ 株式会社キュウホー
14	産学官連携による世界初の歯周病治療器「ブルーラジカル P-01」・行動変容アプリ「ペリミル」の社会実装	① Luke 株式会社 ② 国立大学法人東北大学 大学院歯学研究科
15	デジタルインフラと地球環境の両立する洋上データセンター	① 日本郵船株式会社 イノベーション推進グループ ② 株式会社 NTT ファシリティーズ データセンターエンジニアリング事業本部 ③ 株式会社ユーラスエナジーホールディングス 国内事業企画部 技術企画部 ④ 株式会社三菱 UFJ 銀行 運輸セクター部 事業共創投資部 ⑤ 横浜市 港湾局

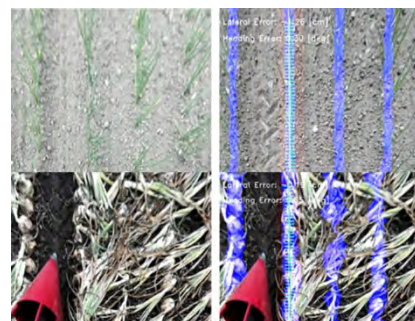
津別町農業協同組合、国立大学法人北海道国立大学機構 北見工業大学 オホーツク農林水産工学連携研究推進センター、NTTドコモビジネス(株)北海道支社ソリューション営業部門、(株)キュウホー

三重苦を抱える「寒冷地・中山間地スマート農業モデル」を地域一体で推進

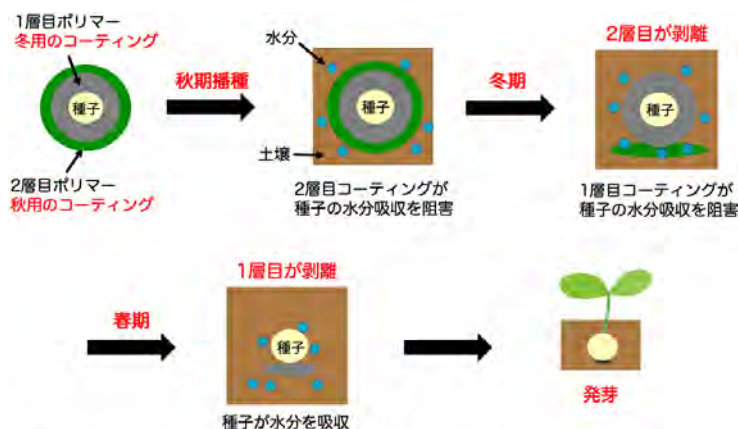
【目的】 北海道道東地区の中山間地域において課題となっている厳寒・積雪・電波不感といった環境条件の下、農作物の担い手不足等を解決するためのスマート農業の導入。

【内容】 北見工大の「発芽制御」・「AIによる作物認識」・「農作業支援ロボット」という地元大学発イノベーションの社会実装に向け、JAつべつ、NTTドコモビジネスと地域農機具メーカーのキュウホーが「四位一体」となって津別町発の寒冷地・中山間地スマート農業モデルを推進。

【効果】 除草作業の負担を軽減する、作物列認識と自動走行制御を備えた「AIカルチロボ」や、寒冷地でも安定出荷が可能になる「温度応答型玉ねぎコーティング種子」といった学術成果を農業現場主導で実装に繋げる新たな農・産・学連携モデルの確立を目指す。



AI除草ロボ



剥離を段階的に制御することで発芽コントロールが可能に！

発芽制御コーティング技術

審査員コメント

- 単にICT技術を活用するだけにとどまらず、品種改良にも取り組むなど「全方位での持続的なスマート農業モデル」として全体デザインがなされている点を評価